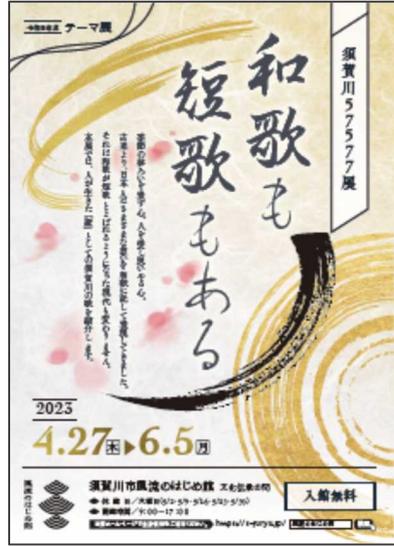


須賀川57577展「和歌も短歌もある」開催中です。



季節の移ろいを表す心を愛し思いやる心。古来より日本人はさまざまな想いを和歌に託して表現してきました。それは和歌が短歌とよばれるようになった現代も変わりません。



2023 第16号 5月号

https://s-furyu.jp/

和歌 技法が凝らされておき、気持ちの間接的に詠む。古典短歌。やまと歌がもたらした言葉。主に貴族が詠み、テーマは情景や恋心。

短歌 技巧は使わずありのままの日常を直接的に詠む。現代短歌。和歌の形式の一つ。明治期に正岡子規をはじめとした歌人たちが、和歌革新運動を行った以後は、「短歌」と呼ぶようになった。

和歌と短歌のちがいは、近世まで書かれたものは「和歌」、それ以降は「短歌」

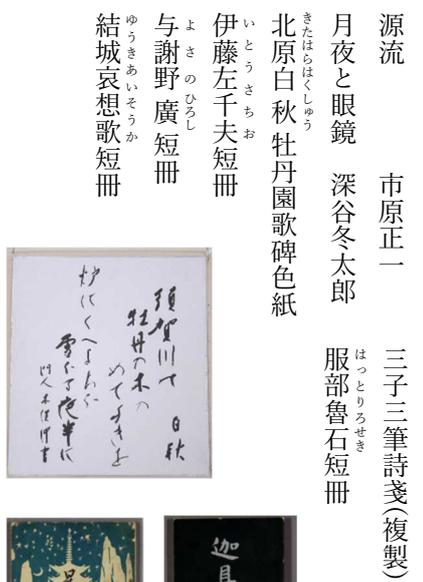
主な作品

- 雪みくら 道山 壮山
- 迦具土 服部 躬治
- 恋愛新評釈 服部 躬治
- 星月夜 近角 常観編

主なうた

陸奥や岩瀬の森の茂日に一声くらき初時鳥
 人問わば岩間の下のなみだ橋流さでいとま暮谷沢とは
 会津嶺の国をさ遠み逢はなはば偲ひにせもと紐結ばさぬ
 都をば霞とともに立ちしかど秋風ぞ吹く白河の関
 須賀川の牡丹の木のめでたきを炉にくべよちふ雪ふる夜半に
 徐に雨のあがれば枝ながら揺れてゆたけき緋牡丹の花

紀貫之 三千代姫
 よみ人知らず 能因法師
 北原白秋 市原正一



服部 躬治

はっとりもとはる 1875-1925
 岩瀬郡須賀川の商家に生まれます。妹は、生涯をハンセン病治療に尽くした医師の服部ケサと将来を嘱望されながらも若くして亡くなった小説家・水野仙子。国学院大学に学び、短歌革新運動の旗手として活躍しました。その後、国語辞典の編集に専念、歌壇の潮流から離れます。関東大震災に被災し、長年にわたり書きとめた国語辞典原稿はすべて失い、失意のまま生涯を終えました。

ギャラリートーク

昨年、新聞紙上に
 躬治の生涯を連載した
 菅野俊之氏が豊富な知見を
 もとに躬治の生涯と
 その仕事について
 お話をします。

須賀川出身の歌人「服部 躬治の生涯と文業」

5/27 (土) 申込はべ切りました。

菅野俊之

福島市在住のフリーライター。元福島県立図書館総括司書・資料情報サービス部長。郡山市あさかの学園大学講師。著書『ふくしまと文豪たち』、編著『水野仙子四篇』など。

約60首の和歌や短歌を紹介。



俳句ポスト表彰式を開催しました

令和四年度



牡丹賞 古川 春枝

煮こぼれていちじくにある花の色

赤松賞 渡辺 圭子

下の川桜うねりの中流る

翡翠賞 新田 純子

走る子の手からほおずき転がりぬ

ぼたん賞 樽川 知怜

里いもに地層のようなしま模様

あかまつ賞 藤田 悠真

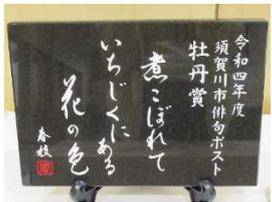
たいふうのたぶんなかにはりゆうのしろ

かわせみ賞 武田 雪

はなごおりとけてはなびらでていたよ

等躬賞

須賀川市立西袋第二小学校



受賞者(一般の部)への副賞として自筆でかいた受賞句を御影石に彫った石盾を贈りました。



令和4年度の年間特選、秀逸、年間入選者13名の作品と第2回入選作品も展示しています。



令和4年度 受賞作品

翠ヶ丘公園の万葉歌碑

藤 ふじ

藤波の花は盛りになりにけり 奈良の都を思ほすや君 大伴 四綱



ここ大宰府でも藤の花が真っ盛りになりました。奈良の都を懐かしく思い出されることでしょうか。あなたも。

翠ヶ丘公園には野の草や花木が詠まれた60首の万葉歌碑があります。万葉集に詠みこまれた植物を本号より紹介します。

三枝 みつまた

春さればまづ三枝の幸くあらば 後にも逢ひむな恋ひそ我妹 柿本人麻呂



春になるとまず咲く三枝の花のように 幸せならば きっと後で逢うことができよう あまり恋に苦しまないでほしい。わたしのいとしいひと。

すかがわ大人塾 (第一回)

はじめての裂織

5/10(水) 17(水)

いにしえの人のモノを大切に する知恵から始まった「裂織 (さきおり)」。布を裂いて織り、新しい命をふきこみます。



大槻美奈子先生(中央)と第1回の参加者の皆さん。素敵なコースターが出来上がりました。

すかがわ大人塾

次回の予定 7/13(木) 20(木)

「はじめての俳句教室」

お知らせ

俳句ポスト

募集期間 通年
選句会 年2回

投句募集

第1回締切 8/27

文化振興課 公式 Instagram 開設しました!



須賀川市文化振興課公式 Instagram